

北海道内で 死亡野鳥からA型インフルエンザウイルス遺伝子の陽性反応！

- * 平成 28 年 11 月 7 日に根室管内中標津町で回収された死亡野鳥(オオハクチョウ)について、11 月 14 日、A型インフルエンザウイルスの遺伝子「陽性」との発表がありました。
今後、北海道大学で高病原性鳥インフルエンザウイルスの「確定検査」を実施しますが、結果判明まで約 1 週間程度かかる見込みです。
- * 現時点では、病原性の高低や毒性の強弱は未確定の段階で、高病原性鳥インフルエンザが発生したわけではありません。また、確定検査の結果、陰性となることもあります。
- * 現在、死亡野鳥の回収場所付近で衰弱・死亡している野鳥は発見されておらず、国内の養鶏場等での発生もありません。しかし、近隣諸国では高病原性鳥インフルエンザの発生が見られており、家きん飼養農場においては、以下の侵入防止対策について再点検を行い、対策を確実に実施してください。

◆侵入防止対策の再確認を◆

○ 関係者以外の立入り制限！

凍結する冬季は
消石灰等を利用

○ 消毒徹底！

- ・ 農場出入口での車両、家きん舎出入口での靴底・手指の消毒
- ・ 消毒薬の定期的な交換、家きん舎の周囲を石灰等で消毒

○ 野鳥との接触を断つ！

- ・ 鶏舎の網や壁などを確認、破損があればすぐに修繕し、野鳥等の侵入を防止する
- ・ エサは清潔に保管、飲用水は野生動物と接触させない
- ・ 野鳥が集まる場所に行った後は、養鶏場には立ち入らない

異常家きんを発見したら、すぐに家畜保健衛生所に連絡を！